

ひょうご事業改善レビュー外部委員会意見について

下表の18事業について自己評価等を実施し、外部委員会委員の専門的見地に基づきご意見をいただきました。

今後、上記意見を踏まえ、事業所管課にて予算編成を通じて改善・見直しを実施します。

①事業改善型（8事業＋振替分2事業）

No.	部局名	事 業 名
1	企画部	「ひょうごSDGs Hub」を活用したSDGsの推進
2	県民生活部	ひょうごプレミアム芸術デーの開催
3	危機管理部	消防団の活性化 (女性消防団員充実強化支援事業)
4	福祉部	潜在保育士復職支援研修事業
5	産業労働部	ひょうご産業SDGs推進宣言事業・認証事業
6	農林水産部	学校給食県産食材供給拡大事業
7	環境部	食品ロス削減に向けたひょうごフードドライブの全県展開
8	まちづくり部	空き家活用支援事業

③フォローアップ型から振り替える事業

9	総務部	大学連携組織を活用した県内大学生の地元就職促進プロジェクト
10	福祉部	視覚障害者情報取得等充実強化事業

②指標点検型（5事業）

No.	部局名	事 業 名
1	総務部	県立大学授業料等無償化事業
2	県民生活部	人権インクルーシブ推進事業 (旧：人権ダイバーシティ推進事業)
3	産業労働部	ものづくり中小企業におけるDX実践モデル事業
4	土木部	生活交通ネットワーク再編等実証実験
5	教育委員会	県立高校ふるさと共創プロジェクト

③フォローアップ型（3事業）

No.	部局名	事 業 名
1	福祉部	依存症対策総合支援事業
2	県民生活部	スポーツ大会招致事業
3	県民生活部	県民芸術劇場の開催

■開催日程

令和7年8月	19日、21日、25日	全5日
9月	4日、12日	

■外部委員会意見

- 別紙レビューシート参照

※URL: <https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk23/r7rebyu.html>

①外部委員会意見（事業改善型）

※アウトカム指標…行政側でコントロールできないが改善したい指標
アウトプット指標…行政側で直接コントロールできる指標

■「ひょうごSDGs Hub」を活用したSDGsの推進

主な外部委員会意見

- ・現会員に対してアンケートを実施し、本事業によって生まれた新しい取り組みを成果として把握してはどうか。アンケートによって把握した好事例の分析・広報を通じて、県民の関心を高めていただきたい。また、完璧なデータ収集よりも、少数の事例から始めて徐々に広げていくという姿勢が重要である。
- ・アウトプット指標に設定されている「イベント参加者数」は県の直接的なコントロールが難しいため、アウトカム指標に設定すべき。
- ・「繋がる」フェーズの成果指標が不足しており、連携事例数などをアウトカム指標として追加してはどうか。指標の設定は測定して評価するだけでなく、関係者のアクションを起こすきっかけとして活用していただきたい。

■ひょうごプレミアム芸術デーの開催

主な外部委員会意見

- ・アウトプット指標の「各施設入館者数」について対象施設が4つとなっているため、他の施設も含めるべき。
- ・再訪につながる仕掛けが必要であるため、来館者アンケートを活用し、学芸員や施設と連携して魅力的な展示や広報を検討すべき。
- ・酒蔵など芸術品を有する非美術館施設の参加も検討してはどうか。芸術文化の定義を広げ、兵庫らしい文化創出を図っていただきたい。

■消防団の活性化（女性消防団員充実強化支援事業）

主な外部委員会意見

- ・女性をターゲットにしているため、女性にしかできない仕事や女性の方が得意な仕事等をPRしていくことも増員につながるのではないか。
- ・全体として団員の数を確保したいということであれば必ずしも女性に限定する必要はないのではないか。
- ・ソフト事業の研修やイベントにおける、一般参加も含めた研修参加者数などをアウトカム指標として追加すべき。

■潜在保育士復職支援研修事業

主な外部委員会意見

- ・研修の案内先数が増えれば、受講者が直接的に増えるというわけではないため、送り方や送る場所も検討していただきたい。
- ・現職保育士へのアプローチから始め、SNSなどを活用して情報発信を強化し、研修案内などに活用してはどうか。

■ひょうご産業SDGs推進宣言事業・認証事業

主な外部委員会意見

- ・SDGsの終期（2030年）以降の展望も視野に入れ、認証企業間でのコミュニティ形成や好事例の横展開が必要ではないか。各企業で最終的なゴールが異なることも踏まえつつ、好事例の横展開を行い、優良企業を表彰する制度も検討していただきたい。
- ・学生は「地球環境」や「持続可能性」にも関心があるため、認証企業の取り組みをもっと見える化し、広報に活用すべき。

■学校給食県産食材供給拡大事業

主な外部委員会意見

- ・子どもや保護者が県産品を特に意識していないように感じる。給食費の中でまかなうためには、特定の日に特別メニューを設定する等、子どもや保護者の印象に残る食育を取り組んでいただきたい。
- ・生産者・市場・消費者間の理解の差が大きく調整役が必要である。コーディネーターが生産者情報を整理し、教育委員会等とつなぐ役割を担うべき。

■食品ロス削減に向けたひょうごフードドライブの全県展開

主な外部委員会意見

- ・認知度向上が回収量増加につながるかを検証してはどうか。
- ・一過性の補助ということは踏まえつつも、可能であるならば補助金額の増額を検討していただきたい。
- ・成功事例を分析し、ゾーンを分けて地域ごとの仕組みやノウハウを横展開していくことが重要である。

■空き家活用支援事業

主な外部委員会意見

- ・空き家数は「ストック変数」であり、自然増（フロー）を施策で抑えるのは難しい。成果の測定方法に再考が必要である。
- ・空き家が活用され、地域にどんな変化が起きたか（交流拠点化、経済効果など）を成果として捉え、見える化してはどうか。
- ・紙媒体中心の広報では限界がある。空き家活用事例や支援制度をSNSで発信し、広く周知・参加促進を図ってはどうか。

■大学連携組織を活用した県内大学生の地元就職促進プロジェクト

主な外部委員会意見

- ・事業の直接的な成果を把握することができていないため、この事業に関わった学生が県内企業の内定を取ったかどうかダイレクトに把握できるよう検討していただきたい。
- ・現在のアウトカム指標（県内大学卒業生の県内企業への就職率）は最終的な目標であるため設定すべきではあるが、遠すぎて事業の効果が見えにくい。より近いアウトカムとして、アウトプット指標に設定している「参加学生数」を最初のアウトカム指標に設定すべき。また、「企業へのエントリー数」「内定取得数」なども把握できる場合はアウトカム指標になるのではないか。

■視覚障害者情報取得等充実強化事業

主な外部委員会意見

- ・選定委員会が選んだ書籍の利用回数を把握し、委員会にフィードバックすることで、より効果的な選定が可能になるのではないか。
- ・特別支援学校などへのオーディオブック使い方ガイドの提供回数など、利用促進活動の量的指標を設定してはどうか。
- ・利用者の声（成功事例）を活用した口コミ的広報等により、広報の強化を図ってはどうか。

②外部委員会意見（指標点検型）

※アウトカム指標…行政側でコントロールできないが改善したい指標
アウトプット指標…行政側で直接コントロールできる指標

■県立大学授業料等無償化事業

主な外部委員会意見

- ・「授業料等無償化」という手段が事業名になっており目的が見えづらい。本来の目的は「兵庫の若者が、学費負担への不安なく安心して希望する教育を受けることができる仕組みづくり」であり、事業名は目的を反映すべき。
- ・現在のアウトカム指標が無償化対象学生に限定されていないため、無償化対象学生に限定したアウトカム指標の設定が望ましい。
- ・新入生アンケートなどを活用し、進学動機や地域定着の傾向を把握することが重要であるため、実施を検討していただきたい。

■人権インクルーシブ推進事業（旧：人権ダイバーシティ推進事業）

主な外部委員会意見

- ・相談者による満足度（例：5段階評価）の平均値をアウトカム指標にしてはどうか。
- ・「相談件数の延べ数」をアウトカム指標に設定してはどうか。
- ・当事者の質問に対しては難しいが、一般的なQ & Aでも当事者以外の支援者にとって有効的であるため作成していただきたい。

■ものづくり中小企業におけるDX実践モデル事業

主な外部委員会意見

- ・DXの実施はボトムアップでは限界があることから経営層への直接的な働きかけで周知していくことが必要である。
- ・モデル事業で対象になった企業がどれだけ生産性が上がったのかが最終的なアウトカムになるため、モデル企業の生産性向上の数・割合をアウトカム指標として設定してはどうか。チャレンジ企業・オブザーバー企業のDX実践状況を追跡し、できる範囲から成果を把握してはどうか。
- ・「周知先団体数」ではなく、「訪問説明回数」や「セミナー開催数」など、具体的な行動を指標化してはどうか。

■生活交通ネットワーク再編等実証実験

〔主な外部委員会意見〕

- ・現行のアウトカム指標（輸送人員数、県民の利便性評価）はマクロ的視点で、事業の直接的成果からは遠い。実証実験の成果として「本格運行への移行数」など、より近い指標を設定すべき。この事業によって交通空白地がどう解消されたか等のダイレクトな数値も指標設定として検討していただきたい。
- ・成功事例を県内他市町に共有する取り組みを行っているのなら、横展開できた数をアウトカム指標として設定することも考えられる。
- ・成果指標の見える化は、担当者のやりがい向上にもつながる。指標の工夫が行政職員のモチベーションにも影響するため、指標を利用していただきたい。

■県立高校ふるさと共創プロジェクト

〔主な外部委員会意見〕

- ・「将来ふるさとで働きたいと思う生徒の割合」はマクロ的な指標で個々の高校の取り組み成果が見えにくいため、探究活動前後でアンケートを実施し、生徒の意識変化を測るような近い成果指標を導入してはどうか。
- ・成果の高い学校の事例を他校に展開することも大事だが、学校間で交流・発表する「キャラバン」的な取り組みにより、共創の意味を深めることも重要である。また、生徒の提案が地域で実現されるなど、生徒が達成感を得られる仕組み作りも試みていただきたい。
- ・生徒が捉える「ふるさと」が市町村単位か県単位かで回答が変わるために、定義の明確化とアンケート設計の工夫が必要である。
- ・キャラバン等のイベントの開催回数をアウトプット指標に、そこで得られた生徒の変化をアウトカム指標に設定し、アンケートで捉えていってはどうか。

②外部委員会意見（フォローアップ型）

※アウトカム指標…行政側でコントロールできないが改善したい指標
アウトプット指標…行政側で直接コントロールできる指標

■依存症対策総合支援事業

主な外部委員会意見

- ・委員会の意見を踏まえ、アウトカム・アウトプット指標の見直しを行い、相談件数や啓発活動回数など、実態に即した評価指標を設定した点は高く評価できる。
- ・自助グループ等との連携を工夫・強化し、活動補助事業を実施していることは、独自の改善であり、アウトプット指標も目標を大きく上回る実績を上げている。
- ・委員会評価基準を満たしており、レビューシートの完成度も高く、横展開にふさわしい事業改善となっていると評価できる。

■スポーツ大会招致事業

主な外部委員会意見

- ・委員会の意見を踏まえ、補助対象経費の柔軟化や、複数年連続での補助申請の容認、エンタメ性の高い大会への支援など、積極的な改善が図られており、非常に評価できる。
- ・特に、アーバンスポーツなどツーリズムとの親和性が高い大会への支援は、地域の魅力発信にもつながり、スポーツ振興と観光振興の両面で効果が期待される。
- ・また、周辺自治体の支援状況を踏まえた制度設計や、補助金の使途拡充による競技団体の負担軽減など、実効性の高い施策が展開されている。

■県民芸術劇場の開催

主な外部委員会意見

- ・委員会の意見を踏まえ、出演団体の固定化解消に向け、新規団体を募集し、積極的な事業改善が実施できており、非常に優れた取り組み内容であると考えられる。
- ・また、PR動画の公開、鑑賞者アンケートの実施など、選ばれる演目づくりへの工夫がなされており、事業改善への積極的な取り組みが見られる。